

6 月は空梅雨模様で、雨が待ち遠しい日が続きました。

一方、梅雨前線が停滞している地域では、豪雨が心配の報も届いています。適量の雨と早い梅雨明けの両方を願うとは、「なんと勝手のいいやつ。」と、お天道様からお叱りを受けそうです。

美しい村づくり委員会が活発に活動してくれそうです。

新聞報道や CATV でご存じの方も多いと思いますが、6 月には大明神地区で『田乃花咲くや祭』というイベントが開催されました。この催しは、昨年大明神地区に移住してこられた小林裕幸さん・由佳さんご夫妻が、美しい村づくり委員会で計画を発表し「がんばる地域づくり補助金」の交付を受けて開催したものです。

この始まりは、美しい村づくり委員会で、委員の今井勝子さん(東白川村神土加舎尾)が、1975 年に村の教育委員会が発行した「東白川村の民謡」という冊子を紹介したことから始まりました。

美しい村づくり委員会では、活動として「村の宝もの探し」を行なっているところですが、委員会に参加していた小林夫妻が「地域の皆さんと田植え唄をバックに田植ができたらいいな。」という発想から企画したものです。移住して来られた皆さん、美しい村づくり委員会の委員の皆さんや地域の多くの皆さんの参加を得て、斬新でかつ村の伝統的な文化の掘り起こしにもつながる催しとなりました。

また、マスコミにも注目され新聞各社に地域の話として取り上げていただきました。まさに「がんばる地域づくり」を体現する活動であったと思います。映像資料や田植唄の CD 作成がされるなど、今後の広がり期待しています。

こうした美しい村づくり委員会の活動は名古屋大学大学院環境学科の注目も集め、博士課程や修士課程の学生さんたちが実践セミナーとして東白川村へ訪れて、美しい村づくり委員と一緒に宝物探しの集落歩きを体験するなど、東白川村の実践を研究対象として活動していただけることになっています。

白川の鮎も大事なふるさと資源ですが、これを生かす取り組みも活発になってきました。

今年初めて飛騨川漁業協同組合のご協力により、解禁前の 6 月 9 日に東白川小学校 5 年生が鮎の友釣りを体験しました。同 17 日の白川鮎の友釣り解禁日には、釣果 100 匹超えの名人もあったという情報も……。道の駅では「こだわりの鮎の塩焼き」が大好評です。東白川村観光協会では、「鮎釣りアカデミー」を 7 月 29 日に開催します。

そして前述の「がんばる地域づくり補助金」の対象事業となったもう一つのイベント「鮎の友釣り大会『ヒガシシラカワズカップ』」が復活します。

飛騨川漁業協同組合東白川支部の皆さんの企画で、8 月 14 日の「東白川夏まつり」の日に開催される予定です。

今年も 7 月上旬に鮎の追加放流を計画しています。

梅雨が明けて夏本番の白川で、鮎の友釣りを楽しんでいただけたらと思います。

平成 29 年 7 月

東白川村長 今井俊郎